

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

学習・基盤教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950000	天沼実 中島望 松居誠一郎 他、課程教員	カリキュラム設計演習	総合人間形成課程で2年次から所属する主領域について決定するための、学生の主体的な取り組みを促す授業です。各領域の学問内容を聞き、履修案内をもとに履修構想を立て、必要な授業を見学したり、教員のもとを訪れて話を聴いたりして、それらを省察することも行います。最終的に仮の履修計画を立てて、次年度以降の学びにつなげます。	本演習は、教育学部総合人間形成課程の学生は必修です。	・各領域の学問内容や学問方法を知り、理解すること。 ・自分の研究テーマを決めること。 ・研究テーマや選択領域に沿った履修計画が立てられること。 ・授業見学や教員訪問を行うことで、教員とのネットワークを増やすこと。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1
S950005	川原誠司 白石智子	人間発達領域入門演習	人間発達領域で学んでいくにあたっての基本的情報を提供する。また、必要な情報を自ら収集・活用するためのスキルを養成し、それらを基に自分の進むべき方向性を検討・明確化させていくための授業である。	本授業は、総合人間形成課程の人間発達領域を所属領域（主専攻）にする学生は必修です。	・自分の研究テーマについてを深化させること。 ・テーマならびに時間割の制約に沿った履修計画を精緻化させること。 ・研究分野および研究方法について理解すること。 ・就職・進路について明確化すること。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1
S950010	天沼 実 守安敏久	言語文化領域入門演習	日本語と英語を主な対象とした言語および言語文化について、その隣接分野を含め、横断的に考察する。	言語文化領域に関わる普遍的・今日的課題への主体的取り組みに向けて、基本的な専門知識及び技能への導入を図る科目である。	言語の仕組みを客観的にとらえ、考える意識や言葉を通して人間と文化を理解するための基礎的な思考法を身につけている。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1
S950015	塚本純 長谷川万由美 黒川亨子	地域公共領域入門演習	経済、福祉、法律などの観点を中心とした講義、演習や自らの作業を通じて、地域公共領域を把握するために必要な幅広い知識の導入部分を学ぶとともに、当該分野の学習方法について学ぶ。	カリキュラム設計科目の一つである。地域公共領域で取り上げる、福祉などの社会的諸問題や政府の活動としての政策を学ぶために作成している自らの履修計画をより深いものにするための授業であり、専門教育のための基礎となるものと位置付けられる。	・地域公共領域の諸問題について課題を見つける方法を身につける ・自分のキャリア形成に向けて大学でどのように学んでいくかについてより具体的な見通しを持つ	0.0	0.0	0.0	0.5	0.2	0.2	0	0.1
S950020	松居誠一郎 酒井一博 佐々木和也	環境創造領域入門演習	環境、環境問題、およびそれに関連する諸分野について演習形式で学ぶ	環境創造領域での学習内容に理解を深め、自主的学習態度を養成する	環境などについての自主的な学習方法の習得および、その分野についての理解を深めること	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1
S950025	中島 望	芸術文化領域入門演習	芸術の社会性について、あるいは芸術そのものの創造的価値を問う半期講座。芸術文化領域入門演習では、各分野のテーマを明確にし、文献講読、小論発表などを通して、相互に課題を共有し、創意工夫を交換し合うことにより、より効果的な取り組みを考察する。	芸術文化領域入門演習は、3年次の芸術文化演習Ⅰ・Ⅱ、さらに総合人間形成課程卒業研究Aに卒論に繋がるレベル、専門的な研究に繋がる質の高いやり取りを、教員との対話を通して経験する。	・各分野の今日的課題を明確にし、これまでの演習で培った判断力をより発展的に深める。 ・文献講読や小論発表を通して、情報発信、課題研究発表（プレゼンテーション）などの基礎技能を修得する。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号								
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す								
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
S950030	黒後 洋	スポーツ健康領域入門演習	スポーツ健康領域での学習内容について概説するとともに、領域の特性を生かしたフィールドワークなどの演習を行う。	スポーツ健康領域の学習内容について、領域の特性を理解すると共に、フィールドワークを通して実践力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康領域のに関する基礎的理論の習得。 スポーツ健康領域に関する諸問題の理解。 スポーツ健康領域に関する実践力の養成。 	0.0	0.0	0.0	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	
S961000	課程全教員	総合人間形成課程卒業研究B	ポートフォリオの集約を基に、自らが学んできたことをポスター発表する。発表は公開し、多くの人の評価を得るようにする。	本授業は、教育学部総合人間形成課程の学生は必修です。	<ul style="list-style-type: none"> 設定した研究テーマを分かりやすく解説すること そのテーマの研究知見が社会に還元できることをアピールすること 履修の整合性や一貫性を説明すること 自らが大学の学びで成長した点を明瞭に伝えること 	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	
		基礎力養成科目												
	天沼 実	論理的思考演習	セミフォーマルなディベートの実践を通じてディベートの構造や立論方法の習得、裏付けとなる資料収集や調査・分析能力の向上、反駁、提示などのスキル向上などを総合的に図る。チーム間でのトーナメントを行う。	自己開発科目中の基礎力養成科目の一つである。現代社会の今日的、普遍的課題に能動的、理知的、論理的、協働的に取り組むための理論的、技術的基盤を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 社会的課題に対し、自己の立場を相対化して考察し、取り組むことができる。 討論のための論理的な立論や反駁ができる。 立証のための資料収集や調査、分析などの能力を応用できる。 明確でわかりやすい立論提示ができる。 	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	
	黒川 亨子	論理的思考演習	「犯罪報道はどうあるべきか(被害者・被疑者・被告人の匿名報道をすべきか)」、「輸血を断固拒否する意思を持つ患者に対し、医師が患者の生命を維持するために輸血をすることは許されるか」、「国公立の女子大学が、男子学生の入学を認めないことは、許されない男女差別にあたるか」などの論点について、異なる立場のチーム(A・B)に分かれて議論を行う。また審判チーム(C)は、A・Bどちらのチームの主張がより説得的であったかを判断する。	自己開発科目中の基礎力養成科目のひとつに位置づけられる。	<ul style="list-style-type: none"> 俯瞰的にものごとを捉えられる力を修得すること 自己の主張を支える根拠を徹底的に調査し、検討を深める態度を修得すること 自己の主張を筋道を立てて説得的に表明できる技術を修得すること 	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.2	0.3	0.1	

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α 英語)	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β スポーツ)	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ 教養)	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950040	酒井一博	科学的思考演習	議論をする際、他者への説明が主観的・独断的になってしまうことがある。それを避けるには科学的・論理的に思考することが必要で、そのための知識やスキルを身につけることで冷静な対応が可能となる。論理命題の理解、数学的思考、統計資料を読み取る力などを通して、事象や問題の本質を科学的な目で捉え、論理的に考える力を養成する。	自己開発科目は、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上で必要不可欠な能力を身につけるための科目群である。この授業は、その基礎力を養成するための科目（基礎力養成科目）の中の1つで、物事を科学的な視点から考察し論理的に考えるための知識やスキルを身につける。	・論理命題の基礎を理解し、日常の具体的例を考察できる。 ・円や三角形についての証明（初等幾何学）を通し、演繹的・帰納的な考え方について学ぶ。 ・統計資料等を読み取り考察する作業を通して、事象や問題の本質を科学的に捉え、思考できるようになる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.3	0.2	0
S950045	松居 誠一郎	実証的研究演習	野外において地図類の実践的な利用法をまなぶ。また地図でさまざまな事象の空間分布の特性を分析する手法をまなぶ	基礎的知識を実地に適用すること	地形図の一般的な利用ができること、および地形図が表すシンボルと現実世界の対応が理解できること、および地図上での論理分析の基礎的能力を獲得する	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.3	0.1	0.2
S950050	小原一馬	実証的調査検証演習	「どうしてプロ野球の人気は衰えてきたのか」「どうして沖縄に住む人の所得は低いのか」「どうして子供達の虫歯は減っているのか」「どうして教育学部の女子学生は国際学部より地味なのか」「どうして読書離れは進んだのか」こういう問いが浮かんだときに、それにどう実証的に答えたら良いのかを、実践的に学ぶ。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、社会科教育専攻のみならず、調査による実証に関心を持つものにとつての入門的内容である。	・何らかの社会現象に関して、その原因を実証するためにどのようなデータを集めたらよいか知り、実際に集められる。 ・そのデータをどのように分析したら良いのか知り、実際に分析できる。 ・その分析結果をどのように示したらよいか知り、実際に示すことができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
	小宮秀明	実証的調査検証演習	実証的調査検証演習は、既に報告されている医科学・健康科学に関する疫学的研究の事例を用いて課題解決に役立つ調査法や分析法について解説する。日常生活の中で疑問に感じていることを題材に取りあげ、複雑に絡み合う事象を明らかにするにはどのような手法を用いて行えばよいかを演習形式で行う。	基礎力養成科目である本演習は、社会の中で問題となる事象の課題解決能力を身に付けることである。事象間の原因・結果、関連性や因果を明らかにすることは重要であり、その解決するための方法論を身に付ける。	・課題を見つけ、その原因を分析するためにはどのような方法を用いればよいか、仮説の設定ができる。 ・事象を明らかにするためのアンケートの作成ができる。 ・データを採取し、その分析法がわかる。 ・結果をどのように解釈するかがわかる。	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.1	0.3	0
S100902	中島 望	芸術表現演習	創造のはじまりは模倣という自己固有の体験からである。毎回の実践を通して本来的な感性を発見する半期講座。芸術表現演習では、前後5回を除く10回の課題（非公開）を個人、あるいはグループ発表などを通して、個々を活かし、互いに高めあう場とする。	芸術表現の理想は、論理ではなく人の心（情感）に訴え、人の意識を変えることである。芸術、文化は知識のみで理解と判断力を養うことは困難である。芸術体験を通して、「人の心（情動）はどこで生まれるのか」を考える。	・芸術への正しい理解と鑑賞の喜びを深めるための基礎的な知識を養う。 ・創作活動を通して、その表現に足る技術の修得をする。 ・個々の表現を尊重し、互いの喜び、責任を分かち合う心のあり方を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

学習・基盤教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号								
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す								
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
	守安敏久	芸術表現演習	その創生から百年以上の歴史を積み重ねてきた映画は、大衆的な娯楽であるとともに、思想とその表現において、見るものに深く思索を促す芸術表現にほかならない。ここでは「古典」と呼ばれる映画史上のさまざまな名作を考察しながら、映画の歴史と映像表現の可能性を学んでいく。なお本授業は鑑賞・研	映画が生み出された時代の社会的・文化的な背景を理解するとともに、さらにその映画が時代を超えて訴えかける、思想と表現の力について、多角的に考察する。それは古典のなかに、現代に生きる可能性を学ぶことでもある。	・映画の歴史と社会的・文化的な背景について理解する。 ・「古典」と呼ばれる名作映画を深く考察する。 ・映画芸術を通して、その思想と表現の可能性を学ぶ。	0.0	0.0	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1	0	
	松島さくら子	芸術表現演習	テーマに沿ってイメージを展開し、具体的なデザインを考え、陶芸素材による実現していく。陶芸のプロセス、陶芸素材や用具の扱い方、素材によりイメージがどのように表現されるのか、探りながら制作を行なう。	芸術表現の中でも、工芸は私たちの生活環境で、最も身近であり、長い歴史をもつ分野である。工芸(ここでは陶芸)に焦点をあて、その専門的な表現方法を学びながら、文化の形成について、これからの芸術表現の可能性について考えていく。	・陶芸素材を使用した創作活動を通して、素材の扱い・道具の使用方法を修得する。 ・テーマに沿って、考えたイメージを実在素材を通して、表現することができる。	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.3	0.1	0.2	
S950060	川島芳昭	情報メディア演習	情報化社会では、情報メディアを適切に活用し、情報の収集、発信等を行うための知識・技能が必要である。この授業では、身の回りにある様々な情報メディアを適切に扱うための知識・技能を演習やグループワークを通して具体的に習得する。	社会における普遍的・今日的課題の解決には、情報メディアの特性を知り、適切に活用するための知識・技能が必要である。本授業では、そのための基礎・基盤である。	・情報メディアの定義を知り、説明することができる。 ・情報メディアの特性を知り、必要に応じて活用することができる。 ・情報メディアの危険性を知り、安全な活用をすることができる。	0.0	0.0	0.0	0	0.2	0.4	0.3	0.1	
		実践力養成科目												
S950065	川原誠司	コミュニケーション演習	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	0.0	0.0	0.0	0	0.1	0.2	0.4	0.3	
S950066	白石智子	コミュニケーション演習	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	
S950067	白石智子	コミュニケーション演習	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α 英語)	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β スポーツ健康)	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ 教養)	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950070	川原誠司	メンタルヘルス実習	ストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての講義、心理テストやグループワーク等の実習を行なう。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・改善策を考慮し、そのための不断の働きかけを考慮できること。	0.0	0.0	0.0	0	0.1	0.2	0.4	0.3
S950070	白石智子	メンタルヘルス実習	ストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての講義、心理テストやグループワーク等の実習を行なう。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・改善策を考慮し、そのための不断の働きかけを考慮できること。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3